

# 伊勢志摩サミット消防特別警戒の実施結果

## 消防・救急課/予防課

### 1 はじめに

本年5月26日（木）、27日（金）に三重県志摩市にある「志摩観光ホテル」を主会場として、伊勢志摩サミットが開催されました。当該サミットにおいては、G7会合のほか、アウトリーチ国が参加する拡大会合が開催され、外交政策上極めて重要な会議として位置付けられています。

このため、消防としてもサミットの円滑な運営と会議参加者の絶対安全を確保するため、開催地の消防力を強化し、テロ災害を含めた災害の未然防止や災害対応力を強化して被害の軽減を図り、消防責任を果たしていく必要がありました。

### 2 消防庁の対応

消防庁では、昨年6月に当地域においてサミットの開催が決定されたことを受け、サミット開催期間中の消防特別警戒体制の万全を期すため、6月15日に消防庁に「消防庁伊勢志摩サミット等対策準備本部」を立ち上げ、外務省、防衛省、厚生労働省などの関係省庁と協議・調整を重ねてきました。

7月29日には期間中における円滑な警戒活動の推進を目的として、消防庁次長を委員長、消防庁審議官、国民保護・防災部長を副委員長とし、三重県、愛知県、開催地消防本部や主な応援消防本部の職員を委員とした、「伊勢志摩サミット消防・救急対策委員会」を設置する

とともに、本委員会のもと、個別具体的な活動計画を策定するための警防・予防部会をそれぞれ設置し、サミット開催期間中における警防計画・予防計画の策定に着手しました。

これらを踏まえ、地元消防本部と応援消防本部が協力して、要人が宿泊する予定のホテル等において立入検査及び防火指導を実施していきました。さらに年明けからは各警戒対象施設の訓練等を本格化させるとともに、警戒に当たる各部隊の隊長を対象とした警防調査、テロ等の災害活動要領の確認を行いました。また、4月には「国際メディアセンター」、5月には主会場である「志摩観光ホテル ザ・ベイスイート」において、施設関係者と連携した大規模な災害対応訓練、統括警戒本部運営訓練、ヘリテレ及びヘリサットシステムの映像受信訓練を実施するなど、火災等の未然防止とテロ災害等発生時の確実な対応要領を確認し、体制の構築を図ってきました。

### 3 結団式の実施

消防特別警戒の開始に先立ち、サミット警戒に従事する消防隊員を激励し、隊員の士気高揚を図るため、5月24日（火）15時30分から三重県志摩市「サンアール磯部」に消防職員約640名、消防車両46台が集結し、結団式が行われました。式の中では、佐々木敦朗前消防庁長官（代理：消防・救急課長）を始め、鈴木英敬三重県知事、高橋淳全国消防長会会長、大口秀和志摩市長から激励を受けました。また、同日14時00分から、愛知県常滑市「常

滑市消防本部」においても、消防職員約130名、消防車両13台が集結し、中部国際空港の警戒に当たる消防部隊の結団式が行われました。



決意表明をする志摩広域消防組合消防本部 山出吉男消防長



集結した全国の消防職員

員等1,014名（警防要員912名、予防要員102名）の消防特別警戒体制を構築しました。

特にテロ災害対応を重視し、特殊災害対応車、大型除染車、ヘリコプター等を増強配備しました。

(応援部隊内訳)

警戒に当たる車両総数99隊、ヘリ6隊				
車両種別	三重県内	愛知県内	両県外	合計
指揮車	2隊	3隊	5隊	10隊
ポンプ車	10隊	4隊	4隊	18隊
救助工作車	2隊	4隊	6隊	12隊
救急車	10隊	4隊	3隊	17隊
はしご車	3隊	2隊	1隊	6隊
化学車	1隊	3隊	3隊	7隊
特殊災害対応車		1隊	4隊	5隊
大型除染車		1隊	4隊	5隊
水槽車		4隊	3隊	7隊
整備工作車			1隊	1隊
無線中継車		1隊		1隊
人員輸送車		1隊	5隊	6隊
資機材搬送車			2隊	2隊
拠点形成車			1隊	1隊
空気充填車			1隊	1隊
ヘリコプター	1隊	1隊	4隊	6隊
計	29隊	29隊	47隊	105隊

## 4 消防特別警戒の体制等

### (1) 実施期間

平成28年5月24日（火）17時00分から

5月29日（日）9時00分までの6日間

### (2) 応援体制

三重県内外から、サミット開催地の消防体制やサミット関連施設の状況、テロ災害が発生している近年の社会情勢を踏まえ、消防車両99台、消防ヘリ6機、消防職

### (3) 警戒対象施設等

首脳会議が開催されるホテル、志摩市及び鳥羽市内の主な宿泊施設、国際メディアセンター、中部国際空港、高速道路（東名阪自動車道、伊勢自動車道、伊勢湾岸自動車道、知多半島道路、知多横断道路、中部国際空港連絡道路）、要人輸送用ヘリポート、伊勢神宮、その他首脳等の訪問先



引き継ぎをする現地警戒本部員



米国大統領到着時のヘリポート警戒活動状況

#### (4) 警戒体制の概要

##### 《消防特別警戒体制の概要》

統括警戒本部	志摩広域消防組合消防本部に設置
地区警戒本部	現地警戒本部を管轄する各消防本部7カ所に設置
現地警戒本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賢島主会場現地警戒本部</li> <li>・長沢運動公園現地警戒本部</li> <li>・プラザ21現地警戒本部</li> <li>・メディアセンター現地警戒本部</li> <li>・鳥羽（船津）現地警戒本部</li> <li>※高速津現地警戒本部</li> <li>※高速四日市現地警戒本部</li> <li>※高速名古屋現地警戒本部</li> <li>・中部国際空港現地警戒本部</li> </ul>

※は、要人が高速道路にて移動する際に対応する警戒本部

#### ア 警戒部隊

サミット関連施設を中心に警戒部隊が待機するためのプレハブ等を設置し、部隊を配備、首脳等の要人の移動経路となる空港や高速道路にも部隊を配備するなど、2交代24時間体制で消防車両を配備して警戒活動を実施しました。また、要人が離着陸するヘリポート、伊勢神宮、ミキモト真珠島、各国首脳の記者会見会場のホテル等において警戒活動を実施しました。警戒は、要人の入国、出国の時間に合わせて行うため、早朝、夜間に警戒隊を配備し対応に当たりました。さらには、救急隊は、緊急事態に迅速に対応するため、主会場のホテルと多くの報道関係者が集まる「国際メディアセンター」内に車両を配備し、救急隊員も施設内にて待機し、警戒に当たりました。

#### イ 予防警戒

警戒期間中、予防警戒員は各サミット警戒対象施設内の防災センター等に常駐し、火災等の未然防止と事案発生時の即応体制の確保を図りました。

さらにはミキモト真珠島などの要人が訪れる施設に予防警戒員の臨時的配置を行い、万全の体制を敷きました。

## 5 警戒部隊の活動等

### (1) 火災等

志摩市内の賢島へのチェックポイントである保安検査場の機器内部が焼損する建物ぼや火災があり、警戒に当たっていた消防隊が地元の消防隊とともに出動しました。火災後、地元消防本部から依頼を受けた総務省消防庁消防大学校消防研究センター職員3名が、地元消防本部の職員とともに火災原因究明に当たりました。

### (2) 救急

サミットに係る警戒期間中の救急出動件数は8件あり、そのうち4件を警戒救急隊が対応、病院への搬送は3件ありました。そのうち、サミット参加国の要人随行者が目目の違和感を訴えホテル内の医務室を訪れ、医師の診断により救急要請となった事案がありましたが、警防

計画や救急マニュアルに基づき、医療チーム及び医療対策本部とも緊密に連携し、救急隊が病院へ搬送しました。



救急活動状況



救急事案対応をする統括警戒本部員

### (3) 消防用設備の作動等

予防警戒員は、サミット警戒対象施設において24時間体制で常駐し、期間中に3件の事案の対応に当たりました。このうち、自動火災報知設備の非火災報が2件、防火戸の作動を知らせる警報が1件あり、いずれの事案についても、予防警戒員が迅速に現場に赴き、異常の有無と原因の究明に当たりました。志摩市内のホテルでの浴室からの蒸気により自動火災報知設備のベルが鳴動する事案においては、警戒していた消防隊も予防警戒員とともに対応に当たりましたが、火災の事実はありません

でした。

また、各施設においては、施設関係者と協力し、巡回警戒を行い災害発生の未然防止に努めるなど、対応に万全を期しました。

## 6 終わりに

消防庁としては、これまでのサミットの警戒体制を踏まえ、開催地消防本部に対し、消防特別警戒に必要となる消防力を示すとともに、近年の社会情勢、政府全体としてテロ災害への対応強化の必要性を助言するなど、盤石な消防・救急体制の確立のための支援、調整を行ってきました。

今回、各サミット関係施設において、開催地消防本部を始め、三重県内外の多くの応援消防本部の職員が旺盛な職務意欲と高い誇りを持ち、一体となって任務を完遂していただきました。それぞれが事前準備及び当日の警戒活動を着実にやり、役割を適切に果たしたことにより、サミットの円滑な実施に多大な貢献をすることにつながりました。

#### 問い合わせ先

消防庁消防・救急課 西羅  
TEL: 03-5253-7522  
消防庁予防課 桐原  
TEL: 03-5253-7523